



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	安平町民前期高齢者の救急医療に関する調査研究
Author(s) 著者	若松, 淳
Degree number 学位記番号	第43号
Degree name 学位の種別	修士 (医科学)
Issue Date 学位取得年月日	2016-03-31
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

「修士論文内容要旨」

報告番号 第 43 号 氏 名 若 松 淳

修士論文題名 「安平町民前期高齢者の救急医療に関する調査研究」

【研究の目的】

北海道胆振管内安平町は、平成 18 年に隣接する早来町と追分町が合併し、総人口は約 8,550 人、そのうち 65 歳以上の高齢化率は 32.2%と全道平均を上回っており、今後も年齢構成など人口構造の推移から急速に高齢化の進展が予想される。

医療資源は旧追分地区に夜間対応可能な個人病院が一施設と、旧早来地区に診療所が二施設存在するが、早来地区は救急件数が年々増加しており、町外搬送率が高いのが特徴である。

これら安平町住民のうち 65 歳から 75 歳未満の前期高齢者で、年齢、性別、就労の有無、介護の必要性などの属性の他、かかりつけ医院や過去 10 年間の救急医療の受療行動について、自己記入式質問票により旧早来町、旧追分町両地区住民の地域差を調査集計し考察した。

【方 法】

1. 対 象

安平町住民のうち 65 歳から 75 歳未満の前期高齢者で、福祉施設などに入所していない自立世帯のうち男女合計 1,364 人を対象とした。

2. 期 間

平成 26 年 10 月 1 日から同年 12 月 31 日まで。

3. 調査方法

自己記入式質問票により調査研究をおこなった。

4. データの分析

データは SPSSversion22.0 を使用し、それぞれの項目に従って χ 二乗検定と多変量ロジスティック回帰分析を用いて集計分析をおこなった。

【結 果】

調査対象者 1,364 人中 735 人からの有効回答を得て、回収率は 53.9%だった。

調査の結果、早来地区と追分地区ではかかりつけ医院の町外受療率 (64.5%VS49.6%、 $P<0.0001$)、救急医療の町外受療率 (94.7%VS75.7%、 $P<0.0001$)、住民背景として就労の有無 (40.1%VS29.4%、 $P<0.003$)、介護の必要性 (7.6%VS4.0%、 $P<0.041$) に有意差が認められた。年齢、性別、就労の有無、家族構成、介護の必要性を調整因子とした多変量ロジスティック回帰分析の結果、かかりつけ医院の町外受療率の早来地区に対する追分地区のオッズ比は 0.543 (95%信頼区間 0.381-0.774)、救急医療の町外受療率では 0.127 (95%信頼区間 0.043-0.377) だった。

【考 察】

安平町前期高齢者では、早来地区にかかりつけ医院と救急医療を町外受療している高齢者が多いという地域差が認められ、在住地域にかかりつけ医が「ある」か「ない」かによって救急医療への受療行動も町外へと流出しており、救急件数の増加に影響している可能性が示唆された。

本来、高齢者医療は地域医療であり、居住する地域において満足できる医療体制を提供し、日常的、経済的負担を軽減することが行政に求められる重要な課題であり、本研究において集積した結果を基に地域医療連携や、適切な救急医療の提供のために活用していきたい。

【結 語】

安平町前期高齢者では、異なる医療資源下で早来地区、追分地区にかかりつけ医院と救急医療への受療行動に地域差が認められた。

論文審査の要旨及び担当者

(平成 28 年 3 月 31 日授与)

報告番号	第 43 号	氏名	若松 淳
論文審査 担当者	主査 教授 森 満	副査 教授 成松 英智	
	副査 教授 小林 宣道		

論文題名	安平町民前期高齢者の救急医療に関する調査研究
------	------------------------

本調査研究の結果、異なる医療事情下にある安平町の前期高齢者では、旧早来町と旧追分町の両地区間で、かかりつけ医の町外受療率、救急医療の町外受療率ともに、旧早来町の前期高齢者で高いという有意差が認められ、居住地域にかかりつけ医が存在するか否かが、救急車の利用も含めた受療行動に強い影響を与えていることが示唆された。また、それら受療した前期高齢者の約半数は入院の必要性がなく、町内の医療機関で対応可能な軽症者が、町外の医療機関に流出しているといった可能性も示唆された。

研究の限界の通り、回収率 53.9%と前期高齢者全体の把握には至らないが、本調査結果による高齢者の受療行動とその傾向は、道内の都市部に隣接した他の各市町村についても同様に、高齢者医療の流出を示唆するものである。本来、高齢者医療は地域医療であり、居住する地域において満足できる医療体制を提供し、高齢者の日常的、経済的負担を軽減することが行政に求められる重要な課題であるが、本調査研究は、前期高齢者の受療行動とその傾向を明らかにし、適切な高齢者医療、救急医療の提供と、今後の地域医療や高齢社会対策への提言となることを示唆し、学位論文として医学修士授与に値するものと審査員全員から評価された。